

令和5年度 第2回西宮市環境審議会 議事録（発言要旨）

- 開催日時：令和5年11月24日（金）14：00～16：00
- 開催場所：西宮市役所 第二庁舎 601、602 会議室
- 出席委員：岸川会長、能登委員、池永委員、藤原委員、山本委員（途中退席）、
松原委員、中村委員（敬称略）
- 欠席委員：大久保副会長、上田委員、小山委員
- 事務局：大西環境局長
尼子土木局長（欠席）
鮫島環境総括室長
藤原公園緑化部長
（環境企画課）小田課長、竹内課長、中村係長、田中係長、空中係長、鮎川主査
（美化企画課）藪内課長
（花と緑の課）船越課長、山本係長
（施設整備課）高橋課長
（施設管理課）大田課長
（政策推進課）福嶋係長

1 開会

2 議題

(1). 協議事項

① 第3次西宮市環境基本計画の中間改定について

事務局より第3次西宮市環境基本計画の中間改定の内容について説明（資料1～5）

※資料3については時間の関係上説明は割愛

【資料1】第3次西宮市環境基本計画中間改定素案（案）

【資料2】第3次西宮市環境基本計画 中間改定ポイント

【資料3】環境計画推進パートナーシップ会議及び環境審議会での骨子案・素案に
対する意見と市の考え方

【資料4】環境に関する市民アンケート調査結果

【資料5】西宮の環境・地域について考えるワークショップ報告書

- ・環境学習都市宣言で述べられている西宮の自然環境に御前浜が入っていない。御前浜も重要な場所である。P13の西宮の自然環境には含まれているので環境学習都市宣言にも御前浜を入れてほしい。また、ゼロカーボンについて、吸収源となる緑に関する施策を取り入れてほしい。他にも街路樹の剪定した枝などを燃やさずに堆肥化あるいは肥料にしてはどうか。例えば、生ごみを堆肥化して肥料として売っている例は大阪府下でもある。ぜひ西宮市でもそういう施策を取り入れてもらいたい。また、生物多

- 様性の指標では植物と動物を分ける必要がある。動物も昆虫や爬虫類、哺乳類等分けたほうが多様性を図りやすい。外来種はマイナスの要素であり、国内外来種も問題になっているため、評価を検討してほしい。(委員)
- 環境学習都市宣言は2003年に環境学習都市推進市民会議により市民の宣言として作成されたもので、変更は難しい。重要ではないから宣言に入っていないのではなく、2003年に宣言を作成する際に市民の方々から西宮を代表するフィールドとして甲子園浜等が選ばれたものであり、御前浜も市としては重要なフィールドであると考えている。(事務局)
- ゼロカーボンには森林管理だけでなく街路樹の剪定の仕方や剪定後の処理のことを書いた方がいい。生態系サービスの調整作用についても触れてほしい。(委員)
- ゼロカーボンの意味を知らない人も多いので、P25ではわかりやすい説明を記載した。二酸化炭素は悪者のようにされているが、人間が生きていくうえで必要なものだと考えている。環境学習や生物多様性、ゼロカーボンを進めるうえでも正しい知識、を伝えることが重要だが、基本計画はアウトラインを示すものであり、詳細な施策は個別計画に載せている。ご指摘の考え方については大事にしていきたい。(事務局)
- 基本計画はあくまでアウトラインでダイジェスト的なもの。個別計画では動物についても分類し、触れている。次の計画改定の際には生物多様性にしのみや戦略についても計画内での表記を検討していく。(事務局)
- 生物多様性もカーボンの吸収量についても面的あるいはボリューム的な評価がない。生態系の多様性についても面的、体積的な評価を考えていくべきである。(委員)
- 生態系のボリュームについては市でも調査しきれておらず今回の計画では反映できていない。引き続き調査を続け、集まり次第データを反映していきたい。(事務局)
- 1972年に環境省が全国の調査結果を出している。参考にしてほしい。(委員)
- ・ 中間改定は定期的に行うことが決まっているのか。(委員)
- 計画策定当時、中間の5年で見直すとしていた。(事務局)
- 資料2にサーキュラーエコノミーについての記載があるが、資源循環の内容にはサーキュラーエコノミーが書かれていない。サーキュラーエコノミーに踏み込まなかった理由は何かあるのか。(委員)
- サーキュラーエコノミーについては市でしっかりとした概念を設定できていない。国がカーボンニュートラル・資源循環・自然再興を同時に進めていくことを掲げている。中間改定では、4つの環境目標をバラバラではなく複数の目標を同時に進めていくことを意識として植え付けることが狙いである。(事務局)
- ・ 商工会議所では昨年からはペーパーレスを進めている。ゼロカーボンを進めるのなら、本会議でも使用する紙を減らしていくべきではないか。市が紙使用量を削減していくことは市の財政にもいいと思う。(委員)
- 市内ではペーパーレス化が進んできているが、外部の方も参加する審議会などへの対応は難しい部分もある。今後もペーパーレス化は推進していく。(事務局)
- ・ 資源循環で2Rとリサイクルを分けているのはなぜか。(委員)

→2Rとリサイクルを分けているのは、リユース、リデュースをまず優先的に考えていただきたいと考えているためである。リサイクルにはエネルギーなど環境負荷の問題があるため、2Rを優先してほしいと考えている。(事務局)

答申文(案)について

第3次西宮市環境基本計画の変更について(答申案)

- ・答申案の3項に「環境に配慮する意識を維持」とあるが、アンケート結果を見ると意識はあまり高くない。「維持・向上」にしてほしい。また、4項に3つの分野が書かれているが4つではないのか。「安全・快適」を入れても問題ないと思う。(委員)
- ご指摘の通りだが、4の分野とは個別計画が作られている分野を指している。「安全・快適」は個別計画を作成していない。ただし4つの目標を同時に進めることが重要なので、誤解を招かないような表現を事務局側で考える。(事務局)
- ・アンケートで得られた意見・提案を答申文に反映してはどうか。(委員)
- アンケートの結果を取り入れるのは大切であり、これからのパブコメでの意見も大事にしていきたいと考えているが、全てを答申文に盛り込むのは難しい。(事務局)
- ・アンケートの意見を取り入れるという案が出たが、1,046人という回答数はサンプル数としてはどうなのか。(委員)
- サンプル数については何とも言えない。計画の推進にあたってはいただいた意見を反映させることは可能だが、個別の意見を全て入れるのは難しい。(事務局)
- サンプル数的には1,000人もあれば統計としては十分である。むしろ回収率が3分の1程度となっているのは少ない印象がある。(会長)
- ・年代別に書かれているが、それぞれの年代は何人だったのか。(委員)
- 資料4の初めに割合が書かれている。若年層は回収率が低かったと感じる。(事務局)
- ・答申文に分かりやすく書かれているが、環境学習都市宣言のページが背景とまざって読みづらい。前回と同じように見やすくしてほしい。(委員)
- 色合いや文字を大きくするなどして調整する。(事務局)
- 今回の審議を踏まえた素案・答申案の修正を会長と事務局でおこなう。

修正については事務局と会長に一任する。

② 第3次西宮市環境基本計画の令和4年度実績の評価について

事務局より、第3次西宮市環境基本計画の令和4年度実績の評価について説明(資料6、7)

【資料6】第3次西宮市環境基本計画の概要及び令和4年度実績の評価結果について

【資料7】令和5年度(2023年度版)環境報告書

- ・資料6のP2の右側に生物の絶滅を招かない、現在絶滅が確認された種はないと書かれているが、断定するのは難しいのではないかと。(委員)
 - ・植物生産研究センターを利用した保全の取り組みで甲山や社家郷山での植物や生物について記載されているが、それ以外の場所はどうなのか。例えば、武田尾など2つに絞らないで他の場所も対象にしてはどうか。(委員)
- 断定については市の方に「何々が見られなくなった」という話が来ていないためこのような書き方になっている。断定はできないため表現を模索しているが、会議の報告ということでこのような表現にした。誤解を招かないように他に表現で参考になるものがあれば意見をいただきたい。保全については、具体的な地名を2つ記載しているが、武田尾等西宮市内にそこにしか生息しない生き物がいる場所もある。文章には表現しきれないが大事にしていき、保全していくための繁殖なども行っていきたい。植生の管理も、保全するだけでなく増やすための施策も進めていこうと思っているので引き続きご意見をいただきたい。(事務局)
- ・武田尾については西宮で一番生物多様性が高いかもしれない。今後の検討として名前を入れるべき。絶滅の確認は難しく、明治や江戸時代に生息していた植物が生えてきたこともある。確認されなくなった場合は消失、消滅を使う。歴史や遺伝子まで調べないと絶滅という言葉は使えない。例えば、今のイチヨウは中国や韓国から入ってきたもので、日本固有のものは古生物としては出てくるが遺伝子は違う種である。このように一度なくなって、再度外から入ってくることもある。消失は確認されていない、消滅は確認されていないという表現がよいと思う。(委員)

(2). 報告事項

① 西宮市環境計画推進パートナーシップ会議の各部会の開催報告

- ・地球温暖化対策部会：地球温暖化対策部会の実施報告、西宮市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）中間改定の検討事項について事務局より説明（資料8）

【資料8】地球温暖化対策部会の実施報告及び西宮市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）中間改定の検討事項

- ・廃棄物減量推進部会：一般廃棄物処理基本計画の進捗及び一般廃棄物処理基本計画の一部見直しに対するパブリックコメントの実施結果、一般廃棄物処理基本計画の一部見直し素案（概要版）、プラスチック資源一括回収モデル事業結果、東部総合処理センター破碎選別施設の名称について事務局より説明

【資料9-1】一般廃棄物処理基本計画の進捗について

【資料9-2】一般廃棄物処理基本計画の一部見直しに対するパブリックコメント結果公表

【資料9-3】西宮市一般廃棄物処理基本計画の一部見直し（素案）概要版

【資料9-4】プラスチック資源一括回収モデル事業結果

【資料9-5】東部総合処理センター破碎選別施設の名称について

- ・生物多様性推進部会：生物多様性推進部会開催報告について事務局より説明

【資料 11】令和 5 年度第 1 回生物多様性推進部会開催報告

② 西宮市環境学習都市宣言 20 周年記念事業の報告

にしのみや環境まちづくりフェスタの開催報告について事務局より説明

【資料 10】にしのみや環境まちづくりフェスタの開催報告

- ・資料 8 の地球温暖化対策にみどりの取り組みが書かれていない。国道 2 号や 43 号は周囲に比べて 2 度ほど気温が高い。二酸化炭素の吸収だけでなく、水の比熱を使って気温を下げる。緑化関係と一緒に、街路樹や垂直緑化に取り組んでもらいたい。西宮市は地下水が多いので、地中熱等でうまく利用していけばいいのではないかな。また、マイクロプラスチックの対策についてはどのように考えているのか。(委員)
- 区域施策編の改定は地球温暖化対策部会の役割であるため、本審議会では簡単に説明するが、打ち水等も大切だと考えており、今回区域施策編の適応策を気候変動適応計画に位置付けたということにも関係してくる。緩和策を実行しても気温は上昇していくと予想されており、気候変動した社会に適応していくという意味で、さきほどのご提案も重要である。こういった適応策の考え方は環境学習の観点も含めて啓発していきたいと考えている。プラスチックについてはプラスチック・スマートアクション・にしのみやを策定し、市民・事業者・行政の役割を明確にしており、普及啓発等に取り組んでいきたい。(事務局)

(3). その他

今後のスケジュールとしては、環境基本計画の中間改定の素案についてパブリックコメントを行うことを 12 月上旬に議会に報告する。12 月下旬から 2 月上旬にかけてパブリックコメントの募集を行い、年度内に完成させる。

3 連絡事項

神戸女学院の景観樹林保護地区の一部区域に変更がある。1 月にもう一度審議会を開催する可能性がある。(事務局)

4 閉会